

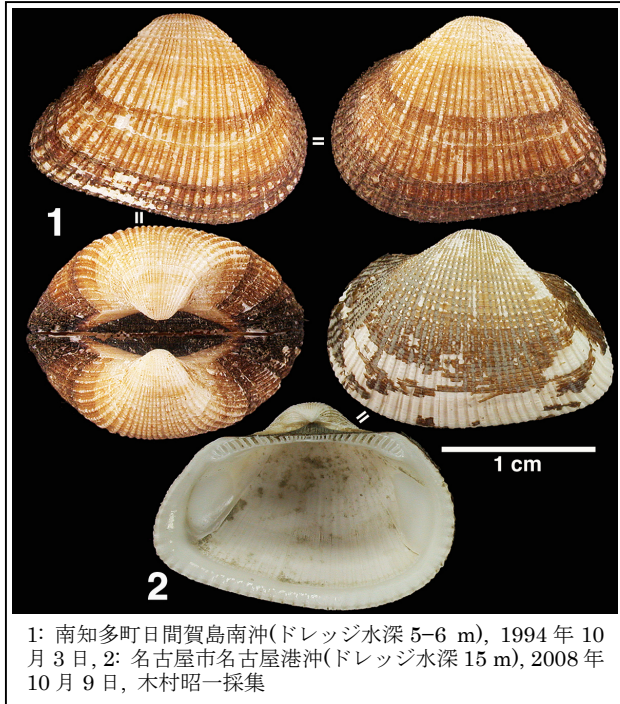
ヨコヤマミミエガイ *Verilarca interplicata* (Grabau et King)

【選定理由】

本種は内湾潮下帯のシルト泥質の多い砂泥底に生息する二枚貝である。1960年代には内湾域での底引き網漁によって生貝が採集されており、殻皮の残存した生貝より作製されたと思われる標本(三河一色水揚げ、底引き網漁で採集というラベルが多い)が比較的多くのコレクション中に見られる。近年、東海地方全域でも生貝が採集された記録はなく、県下での本種の生貝採集記録は、1994年10月に三河湾湾口部日間賀島南沖水深5-6mの砂泥底より採集された2個体(図1)が最後で、その後も死殻は採集されているが、生貝が確認されない。近年では殻皮の残った死殻さえ採集されることが稀である。生息水深帯がやや深いのでモニタリングは難しいが、近年生貝が全く採集されないという危機的な生息状況より、絶滅の危険性が非常に高い種と評価された。

【形態】

殻長約20mm、殻は前後に長い箱形で、前縁は丸く、後縁は腹縁に向かって斜めに突出し、先端は細まる。殻質は厚く、殻表には細いが強い放射肋が出る。生時には殻表は濃褐色のビロード状の殻皮で覆われる。潮間帯の転石・礫海岸を中心に生息するミミエガイ *Striarca symmetrica* (Reeve) とやや近似するが、本種の殻はやや大きく、殻皮が厚く、殻表の放射肋が強いので区別は容易である。また内湾奥の泥質干潟に生息する絶滅危惧種(国ランク; 絶滅危惧 I 類) ササゲミミエガイ *Estellacar galactodes* (Benson) とも近似するが、本種は殻表の放射肋が強いので区別は容易である。また生息水深帯も遙かに深い。



1: 南知多町日間賀島南沖(ドレッジ水深5-6m), 1994年10月3日, 2: 名古屋市名古屋港沖(ドレッジ水深15m), 2008年10月9日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

本種の県内での採集記録は、1960年代には多いが、1990年代に三河湾湾口部の潮下帯よりドレッジで生貝が採集されて以降、生貝の採集報告はない。その後の死殻の採集例は2008年10月に名古屋港沖(殻皮の残された死殻半片; 図2; 木村, 未発表資料)、知多半島内海沖、三河湾湾口部の水深10mまでの潮下帯で散見されるが、近年生貝が確認されていない。

【世界および国内の分布】

台湾、中国南部、房総半島から九州に分布する(松隈, 2017)。瀬戸内海、土佐湾の水深30mまでの潮下帯から2000年代に生息を確認しているが、個体数は非常に少ない(木村, 未発表資料)。三重県側の伊勢湾内、伊勢湾湾口部でも殻皮の残されていない古い死殻は近年も採集されているが、生貝は全く確認できない(木村, 未発表資料)。

【生息地の環境/生態的特性】

外洋に面した内湾の水深30mまでの潮下帯のシルト泥質の多い砂泥底に生息しているが、個体数は非常に少ない。県下での本種の最後の生貝採集記録のある、1994年10月三河湾湾口部日間賀島南沖水深5-6mの砂泥底では、シルト泥質も多いが、硫化水素が発生するような底質ではなく、内湾域潮下帯の泥質を生息環境とする貝類の多様性も高かった(木村, 2000)。

【現在の生息状況/減少の要因】

上述のように生息環境自体が消失したことが一番大きな要因と考えられる。

【保全上の留意点】

本種の生息環境である上述したような生息環境を保全することが重要であろう。

【特記事項】

愛知県のレッドデータブックの絶滅(EX)ランク選定に必要な「過去50年間前後の間に、信頼できる生息の情報が得られていない。」という要件が満たされていないので、絶滅とは評価されなかったが、絶滅した可能性の高い種と考えられる。生息水深帯がやや深く、モニタリングが困難な事もあり、国のレッドデータブックには掲載されていないが、今後絶滅危惧種とすることも考慮するのが望ましい。

【引用文献】

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26), 18-20.
松隈明彦, 2017. ヨコヤマミミエガイ. in: 奥谷喬司(編著) 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. pp. 513, 1169. 東海大学出版部, 平塚.

【関連文献】

日本ベントス学会(編), 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック. 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)